

東北 VALUE SIGHT 山形



NPO法人 企業組合 かほく冷たい肉そば研究会
事務局長

逸見 朋愛（へんみ・ともえ）

1975年、山形県河北町生まれ。
山形県立山形西高校卒業後、会社員を経て2009年に河北町商工会に入社。商業活性化推進委員として河北町の特産品PRを行う。10年4月、河北町民有志による「かほく冷たい肉そば研究会」設立に携わり、事務局長に就任。10年5月に同研究会がNPO法人格を取得。13年4月に同NPO法人が同名の企業組合を設立し、両団体の事務局長を務める。

NPO法人・企業組合 かほく冷たい肉そば研究会
山形県西村山郡河北町谷地59-10
TEL・FAX 0237-72-2455
URL <http://www.tsumetainikusoba.com>

地方経済の停滞傾向が長く続いているが、それを打開すべく、全国各地でさまざまなまちおこしの取り組みがなされている。山形県河北町においても、昔から町民に慕われてきた庶民の料理「冷たい肉そば」に改めてスポットを当て、町内外の人たちと連携して町を活性化しようと「かほく冷たい肉そば研究会」が精力的に活動している。その取り組みを紹介する。

「冷たい肉そば」をブランドとすべく研究会を設立

「地元を活性化する」—誰かがしてくれるわけではないと思う。一人一人の小さな行動が町を変えるきっかけとなり、大きな力となるのだ。

山形県河北町発祥の「冷たい肉そば」は郷土食として長年地元住民に愛され続けてきた。この冷たい肉そばを河北町ブランドとして全国に発信することにより地域活性化を図ろうと、2010年に町民有志が立ち上げたのが「かほく冷たい肉そば研究会」（通称「そば研」）である。メンバーは会社員や店主等さまざま。休日を利用し、ボランティアとしてPR活動を展開している。2011年にはNPO法人格を取得し、ご当地グルメの祭典「B-1グランプリ」に出展するなど活動の場を東北から全国へと拡大している。活動を通して地元の関連産業（飲食店・小売店）だけでなく、観光産業、農業などが発展し、河北町全体が活気あふれる町になることが目標である。



（左）郷土食
「かほく冷たい肉そば」



（下）「B-1グランプリ in 北九州」で河北町をPR

「かほく冷たい肉 そば」を起点に 「食からはじまるまち おこし」を目指して

河北町の「冷たい肉そば」とは

山形県はそば処として板そばが有名だが、昔から、なぜかここ河北町だけは局地的に「そば＝冷たい肉そば！」として町民に愛されてきた。河北町における肉そばは、かつおや昆布などでダシをとった温かいタレに牛肉などを載せるような、いわゆる「全国標準」とは違う。コシの強い田舎そばをきりりと冷やし、鶏肉からダシをとった甘じょっぱく冷たいタレをかけ、親鶏のチャーシューと小口に刻んだネギをのせるのが「河北町式」で、そのルーツは戦前までさかのぼる。当時、河北町で“ちょっと一杯”といった「そば屋」で、ほとんどのお客さんが馬肉を煮たものをおつまみにお酒を飲み、盛りそばでしめるというスタイルだったそうだ。お客さんがある日、残った馬肉の煮込みをそばにかけて食べたことがきっかけとなり、なじみ客から注文される「人気の裏メニュー」となった。その後、馬肉がどこの家でも飼っていた鶏に代わり、さらに、シメとして食べる時に、よりのびにくく、コシを保てるようにとスープを冷やして食べるスタイルが定着し、広まっていった。現在は町内約13店舗のそば屋さんで「かほく冷たい肉そば」を食べることができる。

さまざまな方法でまちおこし

そば研では、まちおこしのために種々の取り組みを展開している。そのひとつに「山形ご当地グルメまちづくり協議会」の設立がある。県内各地で食を通した「まちづくり・まちおこし」が行われており、それらに取り組む団体や人が連携し、地域情報の発

信力を高めて地域固有の食文化の発展・継承ができるよう、そば研が中心となって2012年3月に立ち上げた。現在は5団体が加盟し、共同でPRするなどして広域的に活動している。

その他の取り組みとして、町内の小中学生への食育事業や地元でのおもてなし活動などがある。

食育事業は、調理実習や活動報告等を通して地元の魅力を再発見してもらおうというものだ。その一環で、河北町立谷地中部小学校生を「河北町子供PR大使」に任命し、6年生の授業で町の自慢を満載したオリジナルリーフレットを制作した。リーフレットは各種イベントで配布しており、児童自らも配布やPRの手伝いを行っている。11月には、冷たい肉そばを振る舞いながら、地域の魅力を伝える授業も予定されている。

地元でのおもてなし活動の内容は、お客さまをもてなす仕組みづくりである。町内のそば屋などの店舗に協力を依頼し、観光パンフレットや当会リーフレット等を設置して観光案内所の役割を担っていただくといったことだ。また、「つながる笑顔プロジェクト」と題し、町内協力店舗や交流施設に、イベント等で撮影した来町者の笑顔写真を展示している。このプロジェクトは河北町全体を写真館に見立て、写真提供者（笑顔ファンクラブ会員）が再度来町した際に自分の写真を探しながら町内を巡ってもらえるような仕掛けである。

河北町ファンを増やす

これまでは、河北町の外（県外）でのPR活動に主体をおいていたが、今後、地元からも魅力を発信し

ていこうと新たな取り組みを始めた。その第一弾として、今年の7月13日・14日に「山形ご当地グルメフェスティバル2013 in かほく」を開催した。全国各地で食によるまちおこしをしている団体を集め、ご当地グルメの実演販売を通して各地域の食文化と魅力を発信してもらった。2日間で25,000人のお客さまにご来場いただき、さらに近隣にある紅花資料館の同日の来場者数が前年比4割増加した。

イベントチケットの利用に工夫を凝らし、利用はイベント時の2日間に限定せずに7月末までとし、町内店舗で使えるようにした。これにより、周辺施設や商店などにも大きな経済効果を生んだ。

イベント開催にあたり、まちおこしやまちづくり相互に協力できる新たなネットワーク作りに主眼を置いたことで、さまざまな民間団体が協力しあい、「町民みんなでイベントを成功させよう！」という機運が盛り上がった。小学生や高校生を始めとした延べ600人がボランティアとして参加するなど、これまで成し得なかったイベントとなった。

そば研が活動を始めて4年目になり、以前に比べて来町者数は3倍以上に伸びている。今後は、河北町にいらして下さったお客さまが、町内だけではなく近隣市町村を周遊できる仕組みを充実させたい。今年4月には新たに「企業組合 かほく冷たい肉そば研究会」を設立しており、地元事業者と協力して河北町の特産品等を生かしたオリジナル商品の開発、販売を行っていく予定で、より一層の地域経済の活性化を目指している。

一人でも多くの河北町ファンを増やせるように、「食でのまちおこし」から「食からはじまるまちおこし・まちづくり」につなげていきたい。